

# 令和6年度 愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業

## めざせ！サイエンス・マスター

### 1 ねらい

理科教育の重要性が再認識されていくなかで、子供たちに科学体験が直接できる場を提供し、自然の不思議さや科学のおもしろさについて実感させると共に、科学技術や生物に対する興味・関心を高める。

### 2 実施日 令和7年1月26日（日）

### 3 日程

時間	内容
8:45~	受付開始
9:15~ 9:30	開講式
9:30~12:00	① フィールドワーク 「肱川の石を調べて標本を作ろう」 ※ 荒天時は屋内で石の標本作り
12:00~13:00	昼食・休憩 ※ 休憩時にトキクイズを楽しもう
13:00~14:45	② 実験 「葉脈を取り出してしおりを作ろう」
15:00~16:00	③ 観察 「ちりめんモンスタを探せ！」
16:00~16:15	閉講式



### 4 活動場所 国立大洲青少年交流の家自然環境館、大洲市肱川（如法寺河原）

### 5 参加対象・募集人数 小学3～6年生（30名程度）

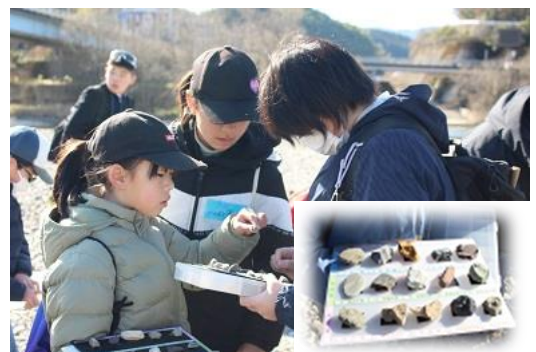
### 6 参加者数 20名

### 7 活動内容と参加者の様子を含む

子供たちの科学技術や生物に対する興味・関心を高めることをねらいとして、国立大洲青少年交流の家の自然環境館や肱川を会場に開催した。

午前中は、如法寺河原で肱川の岩石を調べて標本作りをした。子供たちは、様々な種類の岩石を見つけてはその産地や組成について学んだ。川が長い時間をかけて石を運んできたロマンを感じながら、標本ケースに大切に収めている姿が印象的だった。昼食後の休憩時間を利用して、「トキクイズ」に挑戦した。子供たちは、クイズを楽しみながらトキの生態について学ぶことができた。

午後はまず、自然環境館で葉脈のしおり作りを行った。講師が水酸化ナトリウム水溶液でギンモクセイやナンテンの葉を煮沸したものをトレイに乗せて、歯ブラシを使って葉脈を抽出した。徐々に表れてきた美し



い葉脈に、子供たちは歓声を上げていた。葉脈を食紅等で染めた後にラミネートフィルムでカバーし、リボンを付けてしおりが完成した。

最後のプログラムは、ちりめんじゃこの中からちりめんモンスター(雑魚)を探して観察した。ちりめん(カタクチイワシの幼魚)の中に希少な魚や甲殻類を発見した子供たちは、その度に歓声を上げていた。ゲットしたちりめんモンスターたちをカードにして、宝物のように持ち帰る姿が印象的だった。



## 8 参加者の声

事業後アンケート結果 (20名回答)

\*満足: 100.0%    \*やや満足: 0.0%    \*やや不満: 0.0%    \*不満: 0.0%

- 石にはたくさんの種類があり、遠くから運ばれてきたことが分かりました。
- 4億年も昔の石があることにびっくりしました。
- 地球がどのように動いているのかが分かりました。
- 葉脈でしおりを作ったのが楽しかったです。
- ちりモンはシラスの中に混じっていて、たくさんの種類があることが分かりました。
- ちりモンでアナゴの赤ちゃんを発見してうれしかったです。
- 地球や環境のことについて考えることができた。
- 高校生や大学生がとてもやさしくて、分かりやすく教えてくれてうれしかったです。
- とても楽しかったので、来年も参加したいです。

## 9 事業の成果と課題

事後のアンケートでは参加者全員が「満足」と答えた。八幡浜高等学校自然科学部員や教師を志望する愛媛大学大学院の学生を協力員として各班に付けたことで、子供たちの体験活動がスムーズにできたと考える。また、学生と子供たちとの交流があったことも良かった。経験豊富な講師陣と多くの協力員のおかげで、当初のねらいを十分に達成することができた。

厳冬期の開催のため、河原での活動が少し心配だった。来年度は12月開催とし、新たな活動内容を企画し、さらに魅力ある事業に育てていきたい。また、応募数がやや少なかったため、広報範囲を広げるなどの工夫をしたい。



(担当: 企画指導専門職付係員 小池 源規)